

4. 介護老人保健施設 晴山苑

【運営方針】

【在宅復帰機能の向上と収益性の向上】

【地域への参画と広報活動】

【雇用と人材育成及び定着に関する計画】

【施設、設備の維持に関する計画】

【行事・苑内研修に関する計画】

【運営方針】

身体的、精神的、社会的要因により在宅での生活が困難になった高齢者に対し、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を通じて高齢者の在宅復帰に向けて必要な支援を行なう。また、入所時、在所中、退所時、退所後において在宅復帰に向けての取り組みが円滑に進み、在宅復帰後においても継続的に在宅生活が続けられるよう相談支援業務及び在宅サービスの提供を行なう。

【在宅復帰機能の向上と収益性の向上】

1. 当期（平成 30 年度）における目標
 - (1) 在宅復帰率 30%以上、ベッド回転率 0.05 以上を引き続き維持し、介護老人保健施設本来の役割である在宅復帰機能を強化するとともに、基本型＋在宅復帰・在宅療養支援加算（I）の算定を行い年間 994 万円の収入増を目指す。
 - (2) 中長期計画として在宅強化型の指定を目指す。
2. 相談部門の強化
 - (1) 入所部門 2 名、通所部門 1 名（兼務）の計 3 名の支援相談員を配置し、幅広い専門知識を基に在宅復帰に向けた支援を行える体制を維持する。
3. リハビリ部門の強化
 - (1) 理学療法士 4 名体制とし、作業療法士、言語聴覚士の採用の検討を行なう。

【地域への参画と広報活動】

1. 地域への参画
 - (1) 当苑利用者の外出できる機会を増やすと同時に、高齢者の大きな役割である「本物の知恵の伝承」が出来る場を地域の中に用意する。
 - (2) 地域のイベントや小・中学生の体験学習の受入等を通じ、介護老人保健施設の役割と活動を地域に知ってもらう機会を作る。

【雇用と人材育成及び定着に関する計画】

1. 職員の研修体制の充実

- (1) 未経験や勤務にブランクがある者でも不安なく当苑で就労出来るよう、資格取得支援制度の活用と入職時研修制度の整備を進める。
- (2) 職員それぞれの力量に応じた研修を受けられるよう制度の見直しを行なう。

2. 職員処遇に関する改善

- (1) 介護職員処遇改善加算については、平成 29 年度に引き続き平成 30 年度も処遇改善加算（Ⅰ）を算定する。
- (2) 人員不足解消のため、行政、企業等が行なう就職フェアへの参加、求人媒体の見直しを行い、必要な人材を適切な時期に雇用できるよう求人手法の見直しを行なう。

3. 組織の再編

- (1) 従来別組織としていたケアスタッフの入所部門と通所部門を再編し、一つの部門にすることで従来別々に行っていた採用を一本化し効率化するとともに、病欠等予測が難しい人員の変動に柔軟に対応できる体制を作る。

4. 労働衛生管理体制の確立

- (1) 腰への負担軽減の観点から業務の見直し、福祉機器等の活用を行う。
- (2) 年 2 回の定期健康診断を継続する。
- (3) 定期的にストレスチェックを行い、職員自身のストレスへの気づきを促し、メンタルヘルス不調になることを未然に防ぎ、検査結果を集団ごとに集計・分析し、職場におけるストレス要因を評価し、職場環境の改善につなげる。

【施設、設備の維持に関する計画】

期間設備の対応年数に留意し、設備機能維持のための計画的な機器の改修・更新や建物の維持管理に努める。

1. 当期はナースコール交換（見守りセンサーも含む）を行なうとともに、老朽化が進みすでにメーカーが生産を取りやめているため保守が出来なくなっている入浴リフトの交換を行なう。
2. 開設時より使用している施設設備の老朽化が進んでいるため更新についての中長期計画を作成する。

【行事・苑内研修に関する計画】

行事・苑内研修及び合同苑内研修を計画、実施すると共に法人グループ内の行事にも積極的に参加する。

月	平成 30 年度行事計画 苑内研修	
	行事計画	苑内研修
4 月	さくら祭り 花島観音祭り 花島公園散策 誕生会	
5 月	花島公園散策 給食懇談会 買物(外出リハ) 誕生会	救急法(AED の使用方法)
6 月	アロママッサージ おやつ作り 誕生会	
7 月	かき氷 給食懇談会 誕生会	身体拘束防止・リスクマネジメント
8 月	納涼祭 誕生会	
9 月	花島公園散策 おやつ作り 敬老会 彼岸供養 誕生会	防災
10 月	区民祭り 外出リハ 誕生会	認知症
11 月	アロマセラピー 誕生会 給食懇談会	虐待防止
12 月	クリスマス会 おやつ作り 誕生会 餅つき	
1 月	手作り初詣 誕生会 新年会	処遇・接遇
2 月	アロママッサージ 誕生会 節分	
3 月	誕生会 彼岸供養 おやつ作り 花見(3月下旬～4月上旬)	感染症対策